

第45回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール 最優秀賞・岐阜県教育委員会賞 作品

2年自由図書部門／読んだ本・しんぶんのタバー

最優秀賞・
岐阜県教育委員会賞

いいイスだね、タバー

岐阜市立明郷小学校 宇野綜志

ぼくは、夏休みにメディアコスモスで本をえらんでいた時に、「しんぶんのタバー」のひょうしがかわいくて、この本を読んでみたよ。

ぼくは、イスーン国で一ばんいいイスをきめる「いいイスコンテスト」なんておもしろいなと想ったよ。そのコンテストに、イスではない新聞のタバーが出たいと言ったから、びっくりしたよ。

ぼくが、一ばんこころにのこったことは、イスではないタバーが、ほかのイスたちに、「ぼくはイスです。」

と言ったことだよ。この言葉は、この本の中になん回も出てくるんだ。

一しょにすおおばあさんが、タバーを大切にしてくれて、いつもいいイスだと言ってくれた。だから、タバーはとてもしあわせて、自しんをもてたし、自分のことがすきになったんだね。

ぼくも、タバーにすわってみたくて、家で新聞をためて、ひもでおすんでもらったよ。すわる

とふわっとして、おしりがいたくなくて、家にある木のイスよりもすわりやすかったよ。たしかに、いいイスだなあ。

タバーは、ほかのイスたちから、イスではないとばかりにされてわらわれて、かなしかっただろうな。ぼくだったら、「どうしてそんなこと言うの?」とこころがいたくなって、ないてしまふと想うよ。でも、タバーは、なにを言われても、コンテストでゆうしようすればみんながいいイスだと言ってくれると想って、あきらめずにがんばったのかな。

ぼくは、自分にいやなことを言ったイスたちなのに、タバーが自分のひもをほどこいて川からたすけたり、はげましたりするのを見て、どうしてだろうと想ったよ。ぼくならできないかもしれない。前に、お兄ちゃんとかけんかした時、「ごめんね」を言われても、「いいよ。」とさえないことがあったよ。タバーは、「ごめんね。」を言われていないのにやさしくして、すごいな。

この本を読んで、タバーのいいところは、だれにでもやさしいところと、なにを言われても、自分はいいいイスだと自しんをもっているところだと想ったよ。そんなタバーだから、みんなもいいイスだと言ってくれて、いいイスコンテストでゆうしようできたんだね。

たびするイス大じんになったタバーは、きつとダンボールや切りかぶなどのめずらしいイスたちに出会って、

「きみは、いいイスだよ。」

と言って、みんなをしあわせにしてあげたと想うよ。

ぼくも、タバーみたいに、ともだちにやさしくしたいし、自しんをもって、めあてにおかっががんばれるつよい心もちたいな。